

日本グループ・ダイナミックス学会第71回大会 総会議事録

- ・ 日時： 2025年8月21日(木) 12:20～13:50
- ・ 会場： 弘前大学 総合教育棟 4階 401 講義室。
- ・ 出席者： 79 名

報告事項

総会に先立ち、三浦麻子会長、日比野愛子大会準備委員長よりそれぞれ挨拶があった。その後、総会議長の選出が行われた。会場からの推薦および立候補者がいなかったため、事務局提案により木村昌紀先生（神戸女学院大学）が議長に推薦され、賛成多数で選出された。

総務（事務局）

1. 会員異動・会費納入状況について

村山綾 常任理事より、会員異動・会費納入状況について報告された。2025 年 8 月 5 日時点の会員数は 564 名であり、会費納入率は 73.2%であった。一般会員が減少したが学生会員は増加したこと、全体として会員数は昨年度に比べて微減していることが報告された。また、会費納入状況は例年通りであることが説明された。

2. 名誉会員推戴について（三浦麻子 会長）

三浦麻子会長より、会則の名誉会員規定第 2 条に照らし合わせて該当者を検討した結果、会長 1 期、常任理事 1 期、理事 3 期をご担当された浦光博先生を名誉会員として推戴することが報告された。

3. 2024 年度決算報告（相馬敏彦 前事務局担当常任理事）

相馬敏彦常任理事より、2024 年度決算について報告された。収入について、会費の予算と実績に差額が生じているが、会費の納入率は例年通りであるとの説明がされた。会費未納者については、引き続き督促を行っていくことが説明された。

支出について、学会ホームページリニューアルにかかる費用の支出が 2025 年度に繰り越されたことから、予算と実績にその分の差異が発生したことが説明された。また、大会関連費に関して、第 70 回大会開催校より大会補助金の返金があったため支出額が例年より少なかったことが報告された。

国際学会補助金支援制度は 5 名の方を支援し、当初予算より差額が生じたことが説明された。国際化支援制度補助金は 1 名の方を支援し、当初予算より差額が生じたことが説明された。

以上のように当初予算との差はあるものの、全体的には予算案に沿ったかたちで予算執行されたことが報告された。

4. 2024 年度決算会計監査報告（唐沢かおり 監査）

唐沢かおり監査より、2025 年 6 月 13 日に、山口裕幸監査とともに、ハイブリット形式で 2024 年度決算会計監査が行われ、収入支出ともに適正に処理されていたことを確認した旨が報告された。

5. 第 70 回大会報告（石黒格 第 70 回大会準備委員会委員長）

石黒格前大会準備委員会委員長より、第 70 回大会および大会関連の決算について説明がなされた。支出が

収入を下回ったため、残金が学会に返却されたことが説明された。

6. 次期大会(第 72 回)について (三浦麻子 会長)

三浦麻子会長より、次期 72 回大会について報告があった。次期大会は、有倉已幸先生を大会準備委員長として、鹿児島大学にて行われる予定であることが報告された。

大会

7. 2024 年度優秀学会発表賞の選考結果 (村上史朗 常任理事)

村上史朗常任理事より、2024 年度第 70 回大会優秀学会発表賞の審査結果について報告があった。受賞者は既にグルダイニュース第 66 号で報告されている通り、4 部門で 1 件ずつ、計 4 件の受賞があったことが報告された。

8. 2025 年度優秀学会発表賞の選考経過 (村上史朗 常任理事)

村上史朗常任理事より、2025 年度第 71 回大会優秀学会発表賞の選考経過について報告された。今年度も、ロング・スピーチ、ショート・スピーチ、English Session、ポスターを対象に賞が設けられており、全体で 38 件の応募があったことが報告された。選考委員会による一次審査は既に終了しており、今後、大会発表における二次審査、理事会メール審議を経て受賞者を決定する予定であることが説明された。

9. 選挙関連規程の改定について (村上史朗 常任理事)

村上史朗常任理事より、オンライン選挙の導入に備えて、学会会則細則 第 6 章 役員選出規程第 18 条、20 条、22 条の改定が報告された。具体的には、(1) 実情に合わせる、(2) オンライン投票に対応するため、郵送に限らない様式に対応できるようにする、(3) 用紙を用いない投票に対応できるようにする、という観点に基づき改定が行われた旨が説明された。

渉外

10. 2025 年度 国際学会発表支援制度 (石井敬子 常任理事)

石井敬子常任理事より、昨年度と同様の規定を用い、2025 年 6 月から募集を開始したところ、16 件の応募(過去最多)があったことが報告された。そのため、審査委員会を立ち上げて審査を行うこと、受賞者の発表が例年より少し遅れ、9 月になること、受賞者に関してはグルダイフラッシュで学会員に周知することが報告された。

11. 2025 年度 国際化支援制度 (石井敬子 常任理事)

石井敬子常任理事より、国際化支援制度は学会員による英語論文の英文校閲の費用の一部を補助する制度であるとの説明がなされた。今年度の応募は現時点でゼロであること、引き続き募集していることを学会員に周知することが報告された。

12. 第 71 回大会でのコラボ・リクエスト企画 (石井敬子 常任理事)

石井敬子常任理事より、第 71 回大会において、コラボ・リクエストに関するシンポジウム(コラボ・リクエストのこれから：コラボの路を一步踏み出してみた)を実施することが報告された。

13. AASP 年会費特別割引 (石井敬子 常任理事)

石井敬子常任理事より、アジア社会心理学会(AASP)の年会費の特別割引について報告があった。AASP 特別割引に関しては、一般会員費「1 年(2025 年度): 35 オーストラリアドル」、「2 年(2025 年度、2026 年

度) : 60 オーストラリアドル」(1 オーストラリアドル=100 円として換算。冊子送付なし会員の会費) であるとの説明がなされた。

14. 学会員と外部団体・個人とのコラボレーション支援助成について (石井敬子 常任理事)

石井敬子常任理事より、昨年度に引き続き、学会員と外部団体・個人とのコラボレーションの支援助成を行うことについて説明がなされた。本支援制度は、学会員が、本学会の大会以外の場合、外部組織・団体・個人とコラボレーションをするために必要な経費を支援し、新たなプロジェクトの発展を促進することを目的としたものであることが説明された。本支援制度の応募資格、助成額、応募者の義務、応募スケジュール等についての説明がなされた。

広報

15. 学会ホームページ リニューアル報告 (古谷嘉一郎 常任理事)

古谷嘉一郎常任理事より、昨年度に予定していた学会ホームページリニューアル作業が終了したことが報告された

16. 公式 x 運営終了について (古谷嘉一郎 常任理事)

古谷嘉一郎常任理事より、情報発信および広報活動の一環として運用していた X (旧 Twitter) アカウ
ントについて、近年の運用状況を精査した結果、アカウント維持の必要性および効果が限定的であると
の判断に至り、当該アカウントの閉鎖を決定・実施することが報告された。会員からも賛同の発言がな
され、加えて今後、新しい常任理事会において SNS での発信の再開が提議されたとしても、特に X (旧
Twitter) の使用に関しては、慎重な判断を求める旨の発言があった。これに対し、当該事案が発生した
際には、慎重に対応していくとの回答がなされた。

編集委員会

17. 「実験社会心理学研究」刊行状況 (五十嵐祐 常任理事)

五十嵐祐編集委員長より、前年度の編集委員会以降の実験社会心理学研究の刊行状況について説明がなされ
た。第 64 巻 2 号は原著論文 2 編、展望論文 1 編、Short Note3 編、書評 2 編で構成されており、2025 年 2 月
に刊行されたことが報告された。第 65 巻 1 号は原著論文 2 編、Short Note2 編、書評 2 編で構成されており、
2025 年 9 月に刊行予定であることが報告された。また、2025 年 7 月 25 日時点で、資料 1 編が早期公開され
ていることが報告された。

18. 「実験社会心理学研究」投稿・審査状況 (五十嵐祐 常任理事)

五十嵐祐編集委員長より、「実験社会心理学研究」投稿・審査状況について説明がなされた。過去 5 年間の
投稿本数に関して、2024 年度以降は投稿数が増えていることが報告された。なお、審査に要した日数は 2024
年と同程度であり、2021 年に比べるとおよそ 1/2 に短縮されているとの説明がなされた。

19. 投稿規程の改定について (五十嵐祐 常任理事)

五十嵐祐常任理事より、「実験社会心理学研究」の グリーン OA 化のため、早期公開後に機関リポジトリで
の著者最終稿の即時公開を認可するための規程改定の報告があった。具体的には、(1) J-STAGE のガイド
ラインに準拠する、(2) 研究データ公開ポリシーを明記する、(3) プレプリント論文も投稿可能とする、(4) 論
文掲載料 (無料) について明記する、ことを規程に追加することが説明された。適用時期は改定後の投稿規
程は新規受理論文からとなることもあわせて報告された。

20. 優秀論文賞の選考結果（五十嵐祐 常任理事）

五十嵐祐常任理事より、2024 年度優秀論文賞の選考について説明された。実験社会心理学研究 64 巻 1 号および 2 号に掲載された対象論文から、厳正な審査の結果、下記 2 篇の論文への優秀論文賞の授与が決定されたことが報告された。

その他

21. 日本心理学諸学会連合について（三浦麻子 会長）

三浦麻子会長より、2025 年 6 月 12 日に日本心理学諸学会連合の社員総会が行われたことが報告された。心理学検定試験を各会員の関係者に周知するよう、会員に依頼があった。

22. グループ・ダイナミックス事典について（三浦麻子 会長）

三浦麻子会長より、グループ・ダイナミックス事典出版の企画内容ならびに現在の準備状況について報告された。

審議事項

総務（事務局）

1. 2025 年度予算案について（村山綾 常任理事）

村山綾常任理事より、2025 年度予算案が提議された。収入に関して、会費（一般会員冊子あり/なし、学生会員冊子あり/なし、賛助会員）は今年度 4 月 1 日時点に基づいて算出されていることが説明された。

支出に関して、概ね例年通りで予算計上されていることが説明された。2025 年度予算の特徴として、(1) 広報関係費において、2024 年度より繰り越された学会ホームページリニューアルにかかる費用が計上されていること、(2) 編集事務費において、編集補佐のアルバイト謝金を時給 1000 円から 1500 円に変更したことに伴う予算の増額があること、(3) 事務局経費において、常任理事会で用いるオンライン情報共有ツールの契約内容の変更、ならびに前年度の実績を踏まえ予算が増額されていることが説明された。編集事務費や本部事務局経費に関して増額があるものの、概ね前年度予算を踏襲した案となった。審議の結果、予算案は異議なく承認された。

審議終了後、総会定足数は 282 名であり、総会の出席者は 79 名であるため、未達により仮総会となることが木村昌紀議長より宣言された後、閉会した。